

ロシア・ソ連映画のなかの住宅

開催日時：2023年3月14日（火）

タイムテーブル

13:00 開会／発表①本田晃子（岡山大学）〈日本語・30分〉

ロシアは誰に住みよいか：19世紀末から21世紀初頭までのロシア住宅史概観

Who is Happy in Russian Houses? A History of Russian Housing from the End of 19th Century to the Beginning of the 21st Century

Кому в России жить хорошо?: история русского жилища с конца XIX века до начала XXI века

13:30 発表②小川佐和子（北海道大学）〈日本語・30分〉

メロドラマ的空間：帝政期映画における家と劇場

Melodramatic Spaces: 'Home' and 'Theatre' in Pre-Revolutionary Russian Cinema

Мелодраматические пространства: дом и театр в дореволюционных русских фильмах

14:00 発表③オクサーナ・ブルガーコワ（マインツ大学）〈ロシア語・60分（日本語翻訳あり）〉

幸福には何平方メートルが必要か：ソ連・ポストソ連映画におけるキッチン内の情動

Private Space, or Where the Russians Live and Cook in Post-Soviet Films

Сколько квадратных метров нужно для счастья: аффекты в кухонных интерьерах советских и постсоветских фильмах

15:20 映画『スチリャーギ Стиляги』（ワレーリー・トドロフスキー監督、2008年）

〈ロシア語・日本語字幕つき、136分〉

17:45 質疑応答〈30分〉

18:15 閉会

使用言語：日本語・ロシア語（日本語通訳あり）

写真：Строительство и архитектура Москвы 1974 №3-2
Строительство и архитектура Москвы 1978 №6
Строительство и архитектура Москвы 1971 №10

会場

京都大学文学部第6講義室（文学部校舎2階）

参加申込方法

参加費無料、事前登録不要（どなたでも自由にご参加いただけます）

主催

京都大学文学研究科

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター

国際的な生存戦略研究プラットフォームの構築（SRC）

科学研究費 基盤研究(B) 研究課題 / 領域番号 19H01243

「ロシア・旧ソ連文化におけるメロドラマ的想像力の総合的研究」
（研究代表 安達大輔）

アクセスマップ



問い合わせ先: adaisuke@slav.hokudai.ac.jp（担当・安達大輔）

科研費
KAKENHI



概 要

19世紀末から21世紀初頭までの間に、ロシアにおける住宅の姿はめまぐるしく変化した。19世紀、ロシアの都市部には新興中産階級のためのアパートメントが次々に建設され、ロシアの都市文化は爛熟期を迎えた。しかし1917年、十月革命によって政権を握ったボリシェヴィキは、住宅の私有を否定し、家族の解体を唱え、生活の集団化を推進した。そして都市部のアパートメントを強制的に接收し、「コムナルカ」と呼ばれる共同住宅へと作り変えた。深刻化する住宅難も相まって、スターリン時代の都市住民は、これらコムナルカやバラックでの集団生活を余儀なくされた。

だがスターリンの死後、状況は一転する。ソ連の指導者の地位に就いたフルシチョフはスターリンの建築政策を批判し、いわゆる「団地」と呼ばれる集合住宅の大量供給を自身の政策の目玉に掲げた。その結果、1950年代後半から1970年代にかけて、ソ連の景観を一変させるほどの大量の団地が各地に建設されることになった。人びとも大挙してこれらの新しい住まいへと引越した。ただし団地という家族単位の住宅は、家族の解体を目指した初期社会主義住宅の理念を根本から否定するものでもあった。

そしてソ連崩壊後、住宅は再び個人の所有の対象となった。とはいえ住宅市場は活発とはいえず、2000年代に入ると都市部には富裕層向けの高級集合住宅が続々と建設されたものの、空室も目立つ。その一方で、多くの市民は老朽化したソ連時代の住まいに未だに取り残され続けている。

今回のセミナーでは、このように一世紀の間に激しく変転したロシア・ソ連の住宅とその住人像を、映画のスクリーンを通して眺めていく。

オクサーナ・ブルガーコワ

マインツ大学名誉教授。専門はロシアとドイツの映画研究。特にエイゼンシュテインの研究に力を入れ、伝記執筆や理論研究のほか草稿『メソッド』4巻の編集(2009年、2016年2版)で知られる。その他、スターリンやエイゼンシュテインについての映画の監督、企画展「モスクワ―ベルリン、ベルリン―モスクワ 1900-1950」映像部門の担当、エイゼンシュテインのドローイングを集めたHPや展示など活動は多岐にわたる。現在、上海理工大学美術・デザイン学院客員教授を務めるほか、ドイツ研究振興協会(DFG)の支援を受けたマインツ・ハノーバー両大学間のチーム研究「映画研究のための自動化された視覚コンテンツ分析」に従事。2023年3月にスラブ・ユーラシア研究センターの招へいにより京都・札幌・東京で講演予定。